令和５年２月 20 日

令和４年　自己評価・施設関係者評価表

社会福祉法人　松樹会
幼保連携型認定こども園
松浜こども園

1. 本園の教育・保育目標

発達段階を考慮しつつ、一貫した計画をもとに教育・保育を連続的に展開し、卒園までに身につく事を目指します。

2. 本年に取り組む重点事項

美味しいものを提供する工夫を課題として、厨房運営に取り組んだ。

3. 評価項目の達成及び取り組み内容

評価項目	評価の着眼点	取組状況
保育計画	・建学の精神や教育目標に基づいた運営がなされているか ・教育目標を踏まえて教育課程が編成・実施され、その考え方について教職員間で共有されているか ・年間の指導計画や週案などが適切に作成されているか	入園 0 歳児から卒園に至るまで一貫した計画を持ち、年間保育指導案から月・週案に連動するよう作成されています。どのクラスの計画・実施状況や反省評価を含めた情報も、どの職員も見る事ができ共有されています。
指導	・認定こども園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導が適切に行われているか ・環境を通して行う教育が適切に実施されているか ・幼児との信頼関係の構築が図られているか ・幼児の主体的な活動が尊重されているか ・遊びを通した総合的な指導が適切に行われているか ・一人一人の発達の特性に応じた指導が適切に行われているか など	教育要領に沿った保育計画を、子供の発達に応じて保育実践しております。そうしたクラス運営も個別配慮の視点を欠くことはできません。養護と教育の両輪が成り立つよう配慮しています。 幼児の主体的なあそびの活動については、特に未満児のおもちゃの環境を整備して、より遊びこめるよう見直していきます。 総合性においては国の方針である「10 の姿」を保育目標にて挙げ、子供の育ってほしい姿を示しています。
特別支援	・特別支援教育の為、研修を実施しているか ・特別な支援を必要とする幼児について、個別の指導計画や個別の教育支援計画が適切に作成されているか ・特別な支援を必要とする幼児について、家庭及び医療や福祉などの関係機関との連携が適切に図られているか	支援を必要とする子供も多く在籍するようになりました。園として発達支援に強くなる必要を感じ、重点課題とし、専門の研修を積み研鑽しております。 専門機関との連携も図り個別のケアをしております。

安全管理	・法定の学校安全計画や、学校防災計画等は作成、実施されているか ・園舎や通園路等の安全点検や教職員・幼児の安全対応能力の向上を図るための取組が定期的に行われているか ・関係機関、団体との連携を図りつつ、幼児の安全を確保するための具体的な取組が行われているか	当園の園舎の立地から１階・2 階ともに地上階という安心材料があり、状況を変えての避難訓練もその都度行っております。
研修	・園内の課題をふまえ研修を実施しているか ・保育研究を全教員が行うことや、保育研究を継続的に実施することなどを通じ、指導改善に全園的に取り組んでいるか ・教員の指導の状況を的確に把握するとともに、指導が不適切な教員への対応が適切になされているか ・管理職が定期的に保育観察を行い、教員に対して適切な指導・助言をしているか	各団体主催のオンライン研修の他に、園主催の外部講師依頼の研修・職員内研修を重ねました。１～2 名参加の研修と違い全員で研修することにより意識を共有することができました。 (社会問題となった不適切保育については、防止策が必要である一方、保育という子供の様々な生活場面を集団で預かる中で、保育教諭の一挙手一投足がどこまで許されるのか、大変微妙です。加熱する報道印象で誤解を生みかねない雰囲気がありますが、今後、一園のみではなく包括的な相互理解形成が必要と思われます。)
情報提供	・園の様々な情報が、分かりやすく、かつ適切な分量で提供されているか ・幼児等の個人情報の保護と積極的な情報提供とのバランスに配慮しているか ・園便りや掲示板等を用い、教育活動について、園や子育てに関する様々な情報の伝達・公開が適切に行われているか ・ホームページの活用をはじめ、広く地域住民等に園に関する情報を周知し、提供するための取組を行っているか	冊子状の園だよりを毎月発行配布し、保育のねらいと結果や反省評価が見られるよう整理しました。子供の成長が理解できるよう、日々の保育内容が見えるよう工夫しております。HP は外部の方向けに概略を説明しております。

給食	・食事やおやつは、素材から手作りしたものを提供するように努めているか ・子どもが主体的に偏食を直せるよう工夫をしているか ・子どもが落ち着いて食事を楽しめるように、食事をするための雰囲気づくり等に配慮しているか ・子どもの食事の状況を把握するため、調理担当者は食事の様子を見る機会を設けているか ・食事は、季節感のある献立や食材を利用しているか ・発育期にある子どもの食事の重要性と、園で提供する食事への配慮を保護者に伝えているか ・厨房内における日々の業務反省評価をしているか	さらなる給食の充実をはかり、R2/6よりサイクル献立を取り入れております。厨房業務の流れも落ち着いてきました。食材の味噌も天然醸造を使い発酵食品による免疫増強効果が期待できます。 この献立はおやつも含めて手作りで、身体によい和食を4週にわたり繰り返すことにより、子供は食の経験を積み、しだいに偏食を少なくなります。 子供達に、将来にわたる食の基礎を食べて学んでもらうつもりで取り組んでおります。
施設・整備	・園庭や園舎、敷地は幼児に適した面積か ・安全にかかる配慮は適切か ・遊具の種類や設置状況は適切か	1・2階とも地上階という特殊な立地で安全です。面積は法定以上に広いです。今後必要に応じて教具も増やしていきます。 園庭遊具のｼﾞｬﾝｸﾞﾗﾐﾝｸﾞはダイナミックな遊びの担保のため高さのある遊具ですが、本年衝撃吸収性能のある人工芝を整理しました。本年は3歳以上児用・未満児用のブランコを加えました。

4.学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

特に低年齢児の保育室の環境づくりとして、部屋を遊戯室のような何もない環境ではなく、エリア分けされた環境で、子供の発達に合ったおもちゃをその都度準備し提供することが、子供の心情・意欲・態度を育てることにつながります。環境についての研修から、徐々に整備を進め、担任もおもちゃの提供の仕方等工夫が出てきました。

３歳以上ともなると、低年齢児のような、おもちゃやエリア分けした環境の構成より

も、自分たちの興味関心を深め、友達と遊びを深める・広げるとの活動に移っていきます。例年通り、それぞれの年齢に合わせた保育計画をもとに実践をしてきました。園行事はある面、日頃の保育の中間発表になりますが、あくまで行事(発表)の為の保育ではなく、保育の為の行事であるべきと考えます。

しかし、令和４年はウイルスの影響で年間予定の変更があり、若干、行事主体の動きもあったようです。年間通しての保育計画がありますが、この計画に対して読み解く能力をより意識させられました。ウイルスがあろうとも子供達は日々成長し、様々な興味関心、あるいは意欲を持っており、大切な幼児期にうまく引き上げる事を狙いとしています。

発達障碍・いわゆるグレーゾーンの子供が何人かいるクラスがあります。ABA（応用行動分析）の講師に実地研修を頂く機会がＲ３年度までは毎月のようにありました。残念ながら実地研修機会は減りましたが、担任は蓄積した研修と試行錯誤により、個別・様々な子供の発達の違いがありながら、調和的にうまくクラス運営が出来ているようです。

また、他のあるクラスでは発達障碍対応とまでいかない状況ながら、まとまりに課題を残す面があります。子供に対する支援(お世話)が多くなりすぎると、子供は依存的になるようです。養護と教育。あるいは、支援と自立はどちらを欠いてもなりませんが、そのバランスにはいつも苦慮するところです。少しでも良い保育ができるように、現在進行形で試行錯誤しているところです。

子供達には何も問題はなく、大人の導き方が常に課題となりますので、園の反省評価対象は職員となります。人的環境が子供にとっては一番の環境となる故です。

美味しいものを提供するという課題で、引き続き厨房業務運営の改善をしてきました。R2 年から導入したサイクル献立は、月～金までの週の献立を１か月間毎週繰り返すことで子供達に食の経験を積んでもらうという狙いを持ちます。将来にわたって体を支える食の基礎を培い、美味しい和食中心の給食提供です。通常の献立よりも人件費や材料費がかかり国の保育積算以上の経費が必要で、物価高・食品高の心配もありますが、現状では、内容や給食費を替えておりません。献立や食材を替えることなく、厨房運営により美味しさの改善をはかりました。

また、昨年まで、子供の食欲、遊び食べや残食、好き嫌い、食べるのに長時間かかる等の課題をあげていました。クラスによっては苦戦も続いていますが、全体として上記の課題は改善しております。運動量や給食前の食の興味をひかせるお話・量や時間の見極め等、現場のかかわりにより改善できました。サイクル献立１週目で子供が初めて口にする献立で残食があっても、３・４週目では完食に近づき、子供の食の自信に繋がっているようです。

5. 今後取組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
【非認知能力】を育てる	今年改めて【非認知能力】を高めるという目標をより意識するようになりました。以前から国の指針にもある「育ってほしい 10 の姿」を保育目標に織り込んでおりますが、それぞれの領域(学校で言うところの科目)において反映しづらいものでもありました。【非認知能力】とは例えば、 ●自分を鼓舞し、やる気にさせる能力、 ●他者に対しての協調性、社会性、道徳性 ●粘り強く取り組む能力、 ●とりわけ、自己コントロール（我慢）する能力、 といったものであり、I.Q の知能指数に対して、言わばこれらは【心の知能指数】になります。 保育の５領域を跨ぎ、園の生活全般にわたり、これら最も大事な能力を育てるため、「お手伝い」「少しだけ高い課題提供」「協力して結果が得られるような取り組み」といった課題提供をしていきたいと思います。

6. 施設関係者評価委員会の意見

評価①

今年もコロナ禍でいろんな制限がある中、工夫をしながらなるべくいつも通りに行事や発表会を開いてくださり感謝しております。
子どもも、日頃園で取り組んでいることを発表することがとっても嬉しいようでした。
そのような場を経験することが子どもにとって大きな成長にもつながっていると思います。

また給食で季節感のあるメニューがたくさん取り入れられていることで、一緒にスーパーへ買い物に行った時にも園で学んだことをたくさん話してくれたり、家で出す食材にも興味を持って話を聞くようになったりととてもいい食育になっています。

クラス外の先生もみなさんが、送りやお迎えの時など笑顔で声をかけてくださり安心して園に通わせることができています。

評価②

コロナ禍の中、また今年はインフルエンザの流行もあり大変な中での保育ありがとうございました。

毎日喜んで通ってる子供を見ていて松浜こども園に通わせて本当によかったと思っています。サントレや群読を通して言葉やリズムにも興味を持ってくれたり、今まで食べれなかった物が食べれるようになったりと日々成長を感じています。
先生方の笑顔が素敵なのも松浜こども園の魅力だと感じています。

評価③
コロナ禍において、予定通りに何事も進めづらい時期にも関わらず、一つひとつ精一杯取り組みがなされていると感じます。
　遊びの活動についても、年齢にあった環境、おもちゃのなどの設定ができ、とても細かいところまでの配慮がなされています。また、以前からの給食時など食事を楽しめるように雰囲気づくりがとても良いです。導入したサイクル献立により、遊び食べや、好き嫌いも少なくなったとの事、そして、今後の取り組むべき課題提供についても共感を覚えます。
　最後に、令和四年度のこの時期にもしっかり公開保育の取り組みが出来ている事も法人としての意気込みを感じます。

評価③
コロナウイルスの影響で行事等の変更もあり、運営にとても苦慮されたことと思いますが、各保育室での環境構成を工夫しながら保育計画通りに実行されており職員の質の高さが表れています。
今年度の重点事項の給食に関しては、長期的な目標設定を行い、しっかりと成果が表れていることが大変すばらしいと思います。物価や光熱費等のすべての経費が上がっている中で「食物を大事にする」ということを子どもたちとの関わりの中で築き上げ、更には子どもたちの食への自信に繋げられることは容易なことではありません。
また、年々増える発達支援の課題では、研修研鑽を繰り返し、保護者や関係機関との連絡を密に取りながらその子にあった支援を今後も引き続きお願いいたします。

施設関係者：保護者の代表の方　法人監事

7. 令和 4 年公開保育の取組状況

4 月 5・13 日　　5 月 11・18 日　　6 月 15 日　7 月 13 日　　8 月 3 日　　9 月 7 日
10 月 5・6・12 日　　11 月 9・19 日　　12 月 7 日　　1 月 11 日　　2 月 4・8 日　3 月 1・24 日
保育参観を実施。